



日本共産党 県会議員

きだ 結 KIDA YUI

2016年 春号

● 県会だより

〈きだ結県会議員事務所〉〒658-0053 神戸市東灘区住吉宮町3丁目15-8

TEL.078-414-8875 FAX.078-414-8876

〈日本共産党県会議員団控室〉

TEL.078-341-7711 FAX.078-351-3139

きだゆいプロフィール ●1970年生まれ。神戸女子薬科大学卒。薬剤師。東神戸病院などに勤務。●95年の阪神・淡路大震災で被災、医療分野で被災者救援に従事。●2011年4月、県会議員に初当選。2015年再選。●渦森台在住。家族は夫、中学生と小学生の女の子。



子育て世代の願い 届け

中3まで医療費無料化、県内41市町中34市町に!

中学卒業まで入院・通院とも医療費無料の自治体が今年度、県内41市町中34市町(23市11町)、83%まで広がります。

特に、小野市は4月から高校卒業まで無料化(所得制限なし)します。神戸市は通院自己負担の上限を1回400円に引き下げ、所得制限を緩和します(下表)。

きだ結と日本共産党は、「お金の心配をせず病院に連れていきたい」と切実に願う子育て世代の人たちと力を合わせ、こども医療費無料化の運動・署名に取り組み、議会でも繰り返し求めてきました。ひきつづき神戸市と全県で「中学卒業まで無料、所得制限なし」を実現するためがんばります。

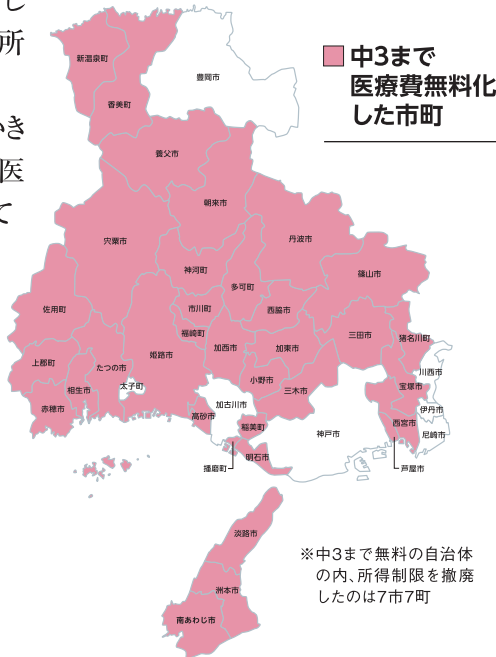
神戸市のこども医療費助成制度の拡充

現行		拡充後	
所得制限	0~2歳までなし	未就学児までなし	
通院自己負担※	0~2歳児	無料	無料
	3歳~中学生	1日500円上限	1日400円上限

※自己負担金はすべて1医院、1薬局ごとの上限額(月2回まで、3回目以降無料)



子どもの医療費無料化を訴え、署名活動(JR住吉駅前)



「保育園落ちた」の声にこたえて

「保育園落ちた」というブログから、「保育園落ちたの私だ」という声が広がり、深刻な保育園待機児童問題があらためてクローズアップされています。認可保育所の増設が急務であり、また保育士の労働条件を改善して、保育士不足を解消することも欠かせません。きだ結は2月1日の臨時議会で、保育士の賃金引き上げのために県予算の増額を強く求めました。



本会議で質疑(2月1日)

第2子、第3子の保育料軽減

国の制度拡充により年収360万円未満の世帯で第2子が半額、第3子が無料になり、県の上乗せで年収640万円未満まで第2子、第3子とも保育料の補助が拡充されます(同時入所要件も撤廃)。

中学校給食の改善を早く

が実施されていません。再開に向け設けられた有識者会議のまとめ(3月18日)では、これまでの業者弁当方式の枠内にこだわり、今後の対応として「異物混入をどこまで報告・公開するか」「業者の選定方法を見直す」などととどまりました。

問題の根本は、安上がりで、安全対策が後回しになりがちな業者弁当給食・家庭弁当との選択制という方式を採用したことにあります。

おかずの冷たさから利用率は、40.2%(東灘・西区計20校平均)。同じ方式を採用していた姫路市はセンター調理方式に変更決定。同じく大阪市も変更を決め、既に一部は自校調理や親子方式(小学校で調理し中学校へ運ぶ)に移行しています。神戸市も安全でみんなで食べる温かい中学校給食への転換を決断すべきではないでしょうか。



中学校給食の現状について学校から聞き取り(向洋中学校。2月5日)

異物混入、衛生管理基準違反から1業者が解約され、現在、東灘区と西区以外、中学校給食

公立高校入試制度(通学区拡大)検証を

県教委は、「学校選択の幅が広がる」「行きたい学校に行ける」として、2015年入試から通学区域を拡大。しかし、実際は県教委のアンケートでも高校選択の理由として最も多かったのは「通学の利便性」であり、行きたい高校を選ぶことはかけ離れた現状です。入試選抜の結果について総合的な検証と、通学圏の拡大をやめ、基本的な学力を保障する高校教育を求めました。

私立高校授業料の軽減

国の制度に上乗せする県の補助が増額され、授業料の負担が軽くなります(対象:年収250~590万円未満世帯)。

日本共産党が提案

国に「給付型奨学金制度の創設を求める意見書」

県議会全会派一致で採択

高い学費を背景に、奨学金を借りて学ぶ大学生は今や2人に1人。多くは利子つきで、卒業すると重い返済に追われ、滞納すると訴えられるなど、深刻な問題となっています。日本共産党県議団は返済不要の奨学金制度の創設を国に求める意見書を提案し、全会派一致で採択されました。